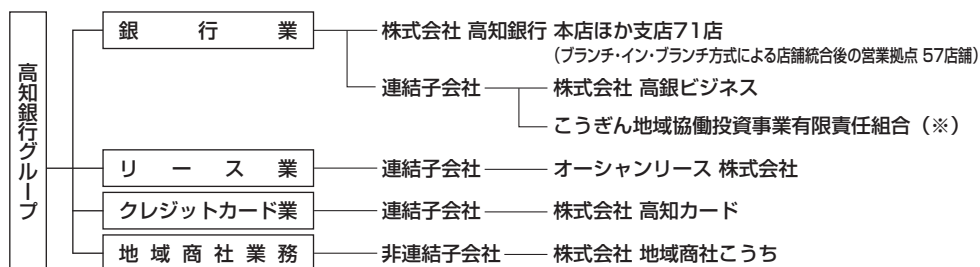


高知銀行グループの概況

●事業系統図（2026年3月31日現在）

当行グループは、当行、当行の連結子会社4社及びその他非連結子会社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービス及び地域商社業務に係る事業を行っております。

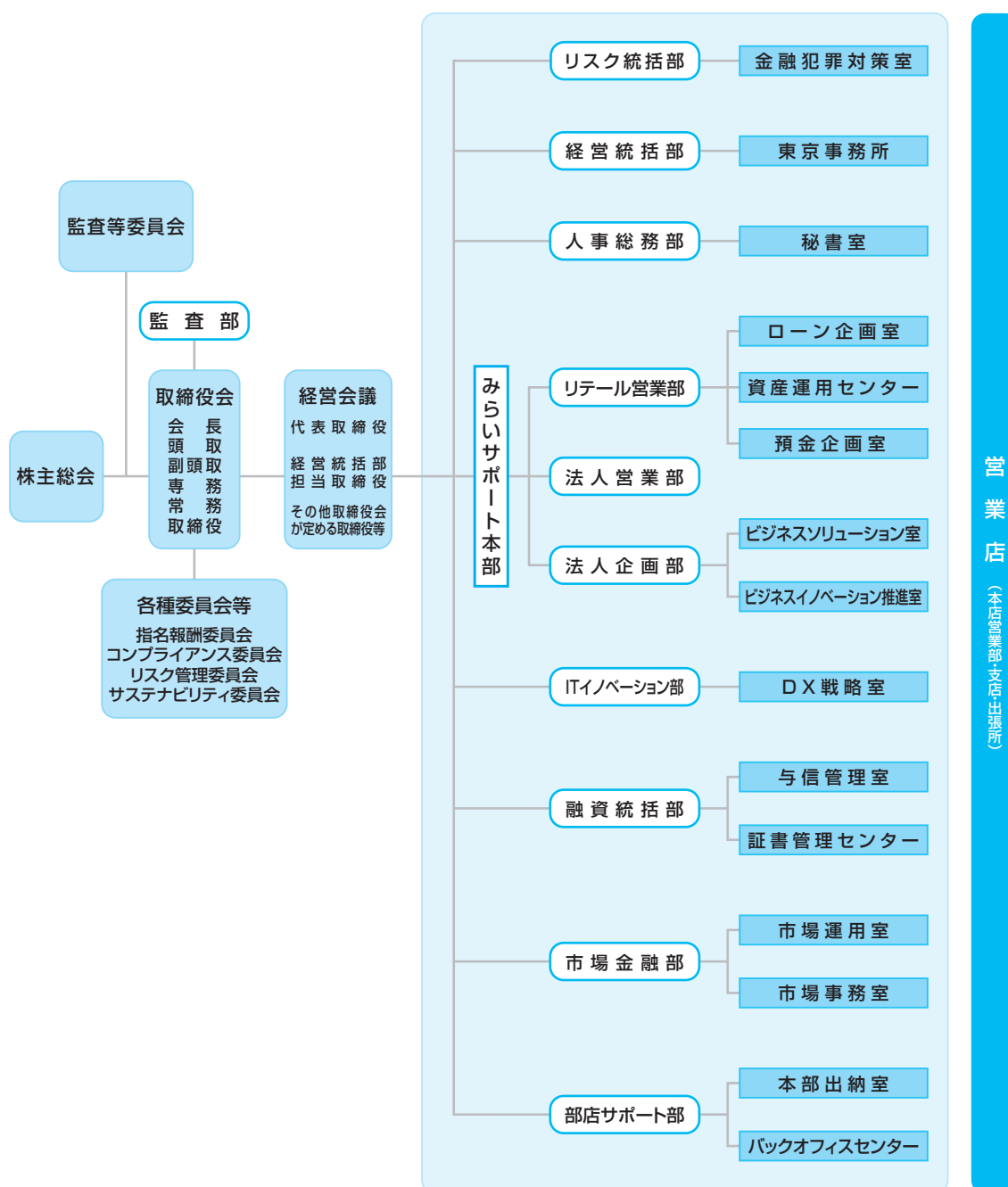
当行グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。



●連結子会社の概要（2026年3月31日現在）

会 社 名	事 業 の 内 容	設立年月日	資本金又は 受入出資金	当 行 出資比率	他子会社 出資比率	住 所
株 式 会 社 高 銀 ビ ジ ネ ス	現金精査整理業務、 清掃管理業務	1979年 8月22日	1,000万円	100%	—	高知市本町三丁目3番4号
こうざん地域協働投資事業有限責任組合(※)	投資業務	2016年 4月 1日	6億円	98.3%	1.7%	高知市堺町2番24号 高知銀行本店3階
オ ー シ ャ ン リ ー ス 株 式 会 社	リース業務	1974年10月 1日	2,000万円	45.0%	—	高知市知寄町一丁目4番30号 YKSちよりビル3F
株 式 会 社 高 知 カ ー ド	クレジットカード業務	1987年 8月18日	2,000万円	5.0%	37.5%	高知市知寄町一丁目4番30号 YKSちよりビル2F

※こうざん地域協働投資事業有限責任組合は、2026年3月31日をもって解散し、現在清算中であります。



営業の概況

●経営環境

2025年度（2025年4月1日から2026年3月31日）の日本経済は、アメリカの通商政策や中東情勢による影響がみられるなか、住宅建設は弱含んでおり、生産は横ばいの動きが継続したものの、個人消費は消費者マインドの改善もあって緩やかに持ち直しの動きがみられました。また、公共投資は底堅く推移し、設備投資は緩やかに持ち直しており、全体としては緩やかに回復しました。

当行の主要営業基盤である高知県の経済は、公共投資は横ばい圏内で推移し、生産は一部に弱さがみられたものの、設備投資は持ち直しの動きが継続しました。また、個人消費は堅調に推移し、雇用所得環境も改善しており、全体としては緩やかな持ち直しの動きとなりました。

●業績（連結）

当連結会計年度における業績は、次のとおりとなりました。

譲渡性預金を含めた預金等は、一般法人預金は増加しましたが、公金預金、個人預金、金融機関預金が減少したことから、前連結会計年度末比209億円減少（2.02%減少）して、当連結会計年度末残高は1兆107億円となりました。一方、貸出金は、運輸業・郵便業、個人、不動産業・物品賃貸業等が増加しましたが、製造業、卸売業・小売業、各種サービス業等が減少したことから、前連結会計年度末比129億円減少（1.73%減少）して、当連結会計年度末残高は7,326億円となりました。また、有価証券は、社債が減少しましたが、その他の証券、株式等が増加したことから、前連結会計年度末比133億円増加（4.70%増加）して、当連結会計年度末残高は2,972億円となりました。

この結果、連結ベースにおける総資産は、前連結会計年度末比31億円増加（0.26%増加）して、当連結会計年度末残高は1兆1,566億円、負債は前連結会計年度末比77億円増加（0.70%増加）して、当連結会計年度末残高は1兆1,071億円、純資産は前連結会計年度末比46億円減少（8.64%減少）して、当連結会計年度末残高は494億円となりました。

損益面では、連結経常収益は、株式等売却益や貸出金利息等の増加により、前連結会計年度比48億99百万円増加して283億79百万円となりました。一方、連結経常費用は、預金利息や国債等債券売却損等の増加により、前連結会計年度比47億43百万円増加して269億98百万円となりました。この結果、連結経常利益は、前連結会計年度比1億55百万円増加して13億80百万円となりました。

特別損益、法人税等及び非支配株主に帰属する当期純利益を加減後の親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度比2億64百万円減少して5億96百万円となりました。

なお、セグメント情報における業績については、銀行業務での経常収益は前連結会計年度比39億71百万円増加して218億11百万円、経常費用は前連結会計年度比39億15百万円増加して206億88百万円、セグメント損益は前連結会計年度比55百万円増加して11億23百万円の利益、セグメント資産は前連結会計年度比37億58百万円増加して1兆1,463億54百万円、セグメント負債は前連結会計年度比86億66百万円増加して1兆1,027億12百万円となりました。

リース業務での経常収益は前連結会計年度比8億91百万円増加して63億27百万円、経常費用は前連結会計年度比7億94百万円増加して60億80百万円、セグメント損益は前連結会計年度比97百万円増加して2億46百万円の利益、セグメント資産は前連結会計年度比3億95百万円増加して124億94百万円、セグメント負債は前連結会計年度比1億57百万円増加して75億51百万円となりました。

クレジットカード業務での経常収益は前連結会計年度比14百万円増加して3億89百万円、経常費用は前連結会計年度比12百万円増加して3億76百万円、セグメント損益は前連結会計年度比1百万円増加して13百万円の利益、セグメント資産は前連結会計年度比9百万円減少して33億5百万円、セグメント負債は前連結会計年度比5百万円減少して21億23百万円となりました。

5連結会計年度の主要な経営指標等の推移

(単位：百万円)

	2021年度 (2021年4月 1日から 2022年3月31日まで)	2022年度 (2022年4月 1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月 1日から 2024年3月31日まで)	2024年度 (2024年4月 1日から 2025年3月31日まで)	2025年度 (2025年4月 1日から 2026年3月31日まで)
連結経常収益	22,099	23,080	22,990	23,479	28,379
連結経常利益	2,314	2,551	1,952	1,224	1,380
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,606	1,601	1,251	860	596
連結包括利益	△ 746	△ 3,858	2,638	△ 7,388	△ 4,342
連結純資産額	74,533	77,030	61,961	54,158	49,474
連結総資産額	1,211,569	1,185,393	1,142,308	1,153,492	1,156,604
連結ベースの1株当たり 純資産額(円)	5,560.26	5,129.67	5,115.28	4,347.89	3,850.18
連結ベースの1株当たり 当期純利益(円)	140.17	139.29	111.96	73.43	47.20
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	55.27	49.63	41.56	51.95	31.99
自己資本比率(%)	5.88	6.22	5.13	4.39	3.96
連結自己資本比率(%) (国内基準)	9.79	10.98	8.53	9.00	9.06
連結自己資本利益率(%)	2.23	2.20	1.89	1.57	1.23
連結株価収益率(倍)	5.40	4.86	9.43	10.86	21.77
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,283	△ 31,976	△ 22,071	25,860	22,893
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,488	6,114	△ 5,936	6,279	△ 18,907
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 462	6,354	△ 17,707	△ 413	△ 342
現金及び現金同等物の期末残高	127,802	108,294	62,580	94,306	97,950
従業員数(人)	770	746	726	721	724

(注) 自己資本比率は、(期末純資産の部合計－期末新株予約権－期末非支配株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

連結自己資本比率(国内基準)

(単位：百万円)

2025年3月末

自己資本比率	9.00%
自己資本(コア資本)	57,396
コア資本に係る基礎項目	58,349
コア資本に係る調整項目(△)	952
リスク・アセット等	637,721

2026年3月末

自己資本比率	9.06%
自己資本(コア資本)	57,664
コア資本に係る基礎項目	59,023
コア資本に係る調整項目(△)	1,359
リスク・アセット等	636,258

連結財務諸表

会社法第396条第1項の規定に基づき、当行の前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）及び当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の連結計算書類は、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）及び当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の連結財務諸表は、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2024年度 (2025年3月31日)	2025年度 (2026年3月31日)
(資産の部)		
現金預け金	95,757	98,659
金銭の信託	1,003	1,003
有価証券	283,915	297,267
貸出金	745,537	732,635
外国為替	705	1,048
リース債権及びリース投資資産	6,630	7,032
その他資産	11,656	9,982
有形固定資産	15,669	16,008
建物	5,053	5,219
土地	9,656	9,662
建設仮勘定	2	1
その他の有形固定資産	956	1,124
無形固定資産	713	959
ソフトウェア	536	742
ソフトウェア仮勘定	133	173
その他の無形固定資産	42	43
退職給付に係る資産	656	1,020
繰延税金資産	1,698	1,518
支払承諾見返	1,794	2,108
貸倒引当金	△ 12,245	△ 12,641
資産の部合計	1,153,492	1,156,604
(負債の部)		
預渡性預金	998,737	977,726
債券貸借取引受入担保金	32,900	33,000
借入金	—	5,701
外国為替	54,464	75,402
その他負債	2	8
賞与引当金	9,187	11,031
賞与引当金	417	336
退職給付に係る負債	30	33
睡眠預金払戻損失引当金	91	78
株式報酬引当金	61	33
繰延税金負債	135	117
再評価に係る繰延税金負債	1,512	1,551
支払承諾	1,794	2,108
負債の部合計	1,099,333	1,107,129
(純資産の部)		
資本金	15,444	15,444
資本剰余金	10,307	10,291
利益剰余金	30,566	30,802
自己株式	△ 206	△ 131
株主資本合計	56,111	56,406
その他有価証券評価差額金	△ 8,459	△ 13,644
土地再評価差額金	3,134	3,077
退職給付に係る調整累計額	△ 112	56
その他の包括利益累計額合計	△ 5,437	△ 10,509
新株予約権	28	2
非支配株主持分	3,456	3,575
純資産の部合計	54,158	49,474
負債及び純資産の部合計	1,153,492	1,156,604

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2024年度 (2024年4月1日から 2025年3月31日まで)	2025年度 (2025年4月1日から 2026年3月31日まで)
経常収益	23,479	28,379
資金運用収益	13,713	15,666
貸出金利息	9,863	10,942
有価証券利息配当金	3,709	4,327
預け金利息	130	388
その他の受入利息	9	8
役務取引等収益	2,652	2,703
その他業務収益	6,003	6,329
その他経常収益	1,110	3,680
償却債権取立益	56	289
その他の経常収益	1,054	3,390
経常費用	22,254	26,998
資金調達費用	736	2,654
預金利息	650	2,203
譲渡性預金利息	19	154
コールマネー利息及び売渡手形利息	5	4
債券貸借取引支払利息	0	5
借入金利息	61	286
役務取引等費用	1,407	1,467
その他業務費用	7,353	8,731
営業経費	11,870	11,778
その他経常費用	887	2,366
貸倒引当金繰入額	268	911
その他の経常費用	618	1,455
経常利益	1,224	1,380
特別利益	—	0
固定資産処分益	—	0
特別損失	38	100
固定資産処分損失	8	67
減損損失	30	33
税金等調整前当期純利益	1,186	1,280
法人税、住民税及び事業税	68	533
法人税等調整額	190	41
法人税等合計	259	575
当期純利益	927	704
非支配株主に帰属する当期純利益	66	108
親会社株主に帰属する当期純利益	860	596

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	2024年度 (2024年4月1日から 2025年3月31日まで)	2025年度 (2025年4月1日から 2026年3月31日まで)
当期純利益	927	704
その他の包括利益	△ 8,316	△ 5,047
その他有価証券評価差額金	△ 8,149	△ 5,171
土地再評価差額金	—	△ 44
退職給付に係る調整額	△ 166	169
包括利益	△ 7,388	△ 4,342
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△ 7,540	△ 4,463
非支配株主に係る包括利益	151	121

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	15,444	10,307	30,067	△ 169	55,648
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△ 373		△ 373
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			860		860
自 己 株 式 の 取 得				△ 37	△ 37
自 己 株 式 の 処 分		－		－	－
土地再評価差額金の取崩			11		11
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純額)					
当 期 変 動 額 合 計	－	－	499	△ 37	462
当 期 末 残 高	15,444	10,307	30,566	△ 206	56,111

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当 期 首 残 高	△ 224	3,146	53	2,975	28	3,308	61,961
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当							△ 373
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益							860
自 己 株 式 の 取 得							△ 37
自 己 株 式 の 処 分							－
土地再評価差額金の取崩							11
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純額)	△ 8,235	△ 11	△ 166	△ 8,413	－	148	△ 8,265
当 期 変 動 額 合 計	△ 8,235	△ 11	△ 166	△ 8,413	－	148	△ 7,802
当 期 末 残 高	△ 8,459	3,134	△ 112	△ 5,437	28	3,456	54,158

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	15,444	10,307	30,566	△ 206	56,111
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当	－	－	△ 373	－	△ 373
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	－	－	596	－	596
自 己 株 式 の 取 得	－	－	－	△ 0	△ 0
自 己 株 式 の 処 分	－	△ 15	－	75	59
土地再評価差額金の取崩	－	－	12	－	12
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純額)	－	－	－	－	－
当 期 変 動 額 合 計	－	△ 15	235	74	294
当 期 末 残 高	15,444	10,291	30,802	△ 131	56,406

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当 期 首 残 高	△ 8,459	3,134	△ 112	△ 5,437	28	3,456	54,158
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当	－	－	－	－	－	－	△ 373
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	－	－	－	－	－	－	596
自 己 株 式 の 取 得	－	－	－	－	－	－	△ 0
自 己 株 式 の 処 分	－	－	－	－	－	－	59
土地再評価差額金の取崩	－	－	－	－	－	－	12
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純額)	△ 5,184	△ 56	169	△ 5,072	△ 25	118	△ 4,979
当 期 変 動 額 合 計	△ 5,184	△ 56	169	△ 5,072	△ 25	118	△ 4,684
当 期 末 残 高	△ 13,644	3,077	56	△ 10,509	2	3,575	49,474

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

区 分	2024年度 (2024年4月 1日から 2025年3月31日まで)	2025年度 (2025年4月 1日から 2026年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,186	1,280
減価償却費	931	916
減損損失	30	33
負ののれん償却額	△ 17	—
貸倒引当金の増減(△)	△ 776	396
賞与引当金の増減額(△は減少)	6	△ 80
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△ 186	△ 119
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3	3
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△ 7	△ 12
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	11	△ 27
資金運用収益	△ 13,713	△ 15,666
資金調達費用	736	2,654
有価証券関係損益(△)	849	△ 8
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	65	△ 5
固定資産処分損益(△は益)	8	66
貸出金の純増(△)減	1,805	12,902
預金の純増減(△)	△ 29,086	△ 21,010
譲渡性預金の純増減(△)	32,400	100
借入金(劣後特約借入金を除く)の純増(△)減	11,124	20,938
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	484	742
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	—	5,701
外国為替(資産)の純増(△)減	△ 237	△ 343
外国為替(負債)の純増減(△)	0	5
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	△ 315	△ 668
資金運用による収入	13,958	15,394
資金調達による支出	△ 521	△ 2,006
その他	7,311	1,725
小計	26,050	22,910
法人税等の支払額	△ 190	△ 16
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,860	22,893
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 88,854	△ 157,521
有価証券の売却による収入	50,647	42,014
有価証券の償還による収入	45,032	97,903
有形固定資産の取得による支出	△ 239	△ 831
有形固定資産の売却による収入	0	9
有形固定資産の除却による支出	—	△ 44
無形固定資産の取得による支出	△ 307	△ 437
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,279	△ 18,907
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△ 373	△ 373
非支配株主への配当金の支払額	△ 3	△ 2
自己株式の取得による支出	△ 37	△ 0
自己株式の売却による収入	—	34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 413	△ 342
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	31,726	3,643
現金及び現金同等物の期首残高	62,580	94,306
現金及び現金同等物の期末残高	94,306	97,950

2025年度 注記事項

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

- 連結の範囲に関する事項
 - 連結子会社 4社
株式会社高銀ビジネス、オーシャンリース株式会社、株式会社高知カード、こうざん地域協働投資事業有限責任組合
 - 非連結子会社 2社
こうざん地域協働投資事業有限責任組合2号、株式会社地域商社こうち
非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。
- 持分法の適用に関する事項
持分法非適用の非連結子会社 2社
こうざん地域協働投資事業有限責任組合2号、株式会社地域商社こうち
持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。
- 連結子会社の事業年度等に関する事項
連結子会社の決算日は次のとおりであります。
3月末日 4社
- 会計方針に関する事項
 - 商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
 - 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社株式については移動平均法による原価法、その他の有価証券については時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他の有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
 - 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
 - デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
 - 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産
有形固定資産は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物: 39年~50年
その他: 5年~10年
 - 無形固定資産
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- 貸倒引当金の計上基準
当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、以下に定める債務者区分に応じて、次のとおり計上しております。
破綻先: 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者
実質破綻先: 破綻先と同等の状況にある債務者
破綻懸念先: 現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者
要注意先: 貸出条件に問題がある債務者、履行状況に問題がある債務者、業況が低調ないし不安定な債務者又は財務内容に問題がある債務者など今後の管理に注意を要する債務者
要管理先: 要注意先のうち、条件緩和債権又は三月以上延滞債権を有する債務者
正常先: 業績が良好で財務状況にも特段の問題がない債務者
① 破綻先に係る債権及び実質破綻先に係る債権については、次のとおり記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は2,450百万円であります。
② 破綻懸念先及び要管理先と与信額が一額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。
③ 上記②以外の破綻懸念先に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額に予想損失率を乗じた額を貸倒引当金として計上しております。なお、予想損失率については、過去の一定期間における貸倒実績率の平均値に基づいた損失率と景気循環サイクル等を勘案した損失率を比較し、将来見込み等を考慮して算定しております。
④ 上記②以外の要管理先に係る債権については、過去の一定期間における貸倒実績率の平均値に基づいた損失率をもとに、将来見込み等を考慮した予想損失率により貸倒引当金を計上しております。

- ⑤ 正常先及び要注先に係る債権については、過去の一定期間における貸倒実績率の平均値に基づいた損失率をもとに、将来見込み等を考慮した予想損失率により貸倒引当金を計上しております。

(注) 1 貸倒引当金の算定におけるグルーピング

上記の債務者区分に加えて、正常先は2区分(遠隔の特定地域の正常先のうち信用格付が低位の先(特定地域の正常先)、それ以外の正常先)、要注先は3区分(経営改善計画等により債務者区分の判定を行っている債務者(計画要注先)、遠隔の特定地域の要注先(特定地域の要注先)、それ以外の要注先)にそれぞれグルーピングしております。

2 今後の予想損失額を見込む一定期間

破綻懸念先、要管理先及び要注先のうち計画要注先は3年、それ以外の要注先(特定地域の要注先を含む)及び正常先は1年としております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

(8) 株式報酬引当金の計上基準

株式報酬引当金は、当行の取締役(社外取締役を除く)への将来の当行株式の交付に備えるため、株式交付規程に基づき、ポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：発生年度に一括損益処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(10) 重要な収益及び費用の計上基準

当行グループの顧客との契約から生じる収益は、主に「預金・貸出業務」「為替業務」「証券関連業務」による役務の提供に対する収益等から構成されており、顧客への役務提供時点等において当行グループの履行義務が充足されると判断しており、当該時点等で収益を認識しております。

また、ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上基準(貸手側)については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(11) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(12) 負ののれんの償却方法及び償却期間

20年間の定額法により償却を行っております。

(13) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(14) 消費税等の会計処理

有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

(15) 投資信託の解約・償還損益

投資信託の解約・償還損益は、銘柄ごとに集計し、益の場合は「有価証券利息配当金」、損の場合は「その他業務費用」中の国債等債券償還損に計上しております。

(16) 株式配当金

株式の配当金は、その支払を受けた日の属する連結会計年度に計上しております。

(17) 外貨建その他有価証券の換算差額の処理

外貨建その他有価証券の換算差額は、外国通貨による時価の変動に係る換算差額を評価差額とし、それ以外の差額については為替差損益として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

貸倒引当金

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

貸倒引当金 12,641百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 算出方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (5) 貸倒引当金の計上基準」に記載のとおり、自己査定基準に則り全ての債権について資産査定を行い、債務者を信用リスクに応じて区分した上で、償却・引当基準に基づいて、債務者区分毎に貸倒引当金を計上しております。

当行では、債務者の実態的な財務内容、収益力等により、その返済能力を検討し、債務者に対する貸出条件及びその履行状況を確認のうえ、業種等の特性を踏まえ、収益性の見通し、年間弁済可能額による債務償還能力、経営改善計画の妥当性等を総合的に勘案し、債務者区分を判定しております。

② 主要な仮定

債務者区分の判定における主要な仮定は、個別債務者ごとの将来の業績見通しであります。将来の業績見通しは、キャッシュ・フロー見込、財政状態、収益性等の情報に基づき、特に、経営改善計画が作成されている債務者については、その実現可能性、進捗状況、財政状態の回復見込等を加味しております。

貸倒引当金の算定に使用する予想損失率は、過去の貸倒実績率と一定の関連性があるとの仮定に基づいております。また、遠隔地域の債務者に対する債権については、相対的に情報が劣後する結果、信用リスクが高くなると仮定し、予想損失率の算定を行っております。ただし、直近の貸倒実績等に鑑み、特定地域の正常先及び特定地域の要注先を対象としております。

なお、当連結会計年度末においては、円安の長期化や中東情勢の影響等を起因として原材料価格や物流費等が高騰していることから、債務者の収益・資金繰りには一定の下押し圧力が生じていると認識しています。しかし、政府や自治体の経済対策が打ち出されていることなどから、その影響は限定的で、与信費用の増加は多額とはならないとの仮定を置いて貸倒引当金を算定しております。

③ 翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響

当連結会計年度と同様、原材料価格の高止まりに加え、中東情勢の緊張長期化に伴う石油関連製品の供給遅延・不足等の影響が大きくなった場合は個別債務者の収益・資金繰りに下押し圧力が生じる可能性があるとして認識しております。これらの要因により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(未適用の会計基準等)

1. リースに関する会計基準等

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)等

(1) 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあつたものとする取り組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFAS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFAS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法についてはIFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

2. 金融商品会計に関する実務指針

- ・「金融商品会計に関する実務指針」(改正移管指針第9号 2025年3月11日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

当改正では、一定の要件を満たす組合等への出資について、その構成資産に含まれるすべての市場価格のない株式(出資者の子会社株式及び関連会社株式を除く)を時価評価し、組合等への出資者の会計処理の基礎とすることができる定めが新設されました。

(2) 適用予定日

2027年3月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「金融商品会計に関する実務指針」の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

(取締役に対する業績連動型株式報酬制度)

当行は、2017年度より、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、当行の取締役(社外取締役を除く。以下同じ。)を対象に、業績連動型株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入しております。なお、新規に新株予約権の付与は行わないこととしております。

1. 取引の概要

本制度は、当行が金銭を拠出することにより設定する信託(以下「本信託」という。)が当行株式を取得し、各取締役に対して当行が定める株式交付規程に従い、業績達成度等一定の基準に応じて当行が付与するポイントの数に相当する当行株式及び当行株式に代わる金銭が、本信託を通じて交付される業績連動型の株式報酬制度です。

2. 信託に残存する当行株式

信託に残存する当行の株式は、株主資本において自己株式として計上しており、当該自己株式の帳簿価額及び株式数は当連結会計年度末において51百万円、53千株であります。

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

株式	200百万円
組合出資金	134百万円
2. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるものであります。	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	3,955百万円
危険債権額	26,382百万円
要管理債権額	882百万円
三月以上延滞債権額	32百万円
貸出条件緩和債権額	850百万円
小計額	31,220百万円
正常債権額	728,947百万円
合計額	760,167百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

3. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

1,371百万円

4. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	110,471百万円
担保資産に対応する債務	
預金	354百万円
債券貸借取引受入担保金	5,701百万円
借入金	73,000百万円
その他負債	30百万円
上記のほか、為替決済等の取引の担保として、次のものを差し入れております。	

有価証券	8,720百万円
現金預け金	18百万円

また、その他資産には、敷金保証金及びその他の保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

敷金保証金	234百万円
その他の保証金	1,014百万円

5. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	180,440百万円
うち原契約期間が1年以内のもの	
(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)	178,778百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

6. 土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1999年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法（1991年法律第69号）第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、実行価格補正等合理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の期末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

9. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額 11,080百万円

10. 顧客との契約から生じた債権については、「その他資産」に含まれております。契約負債については、「その他負債」に含まれております。顧客との契約から生じた債権及び契約負債の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）3. 当期及び翌期以降の収益の金額を理解するための情報」に記載しております。

(連結損益計算書関係)

1. 顧客との契約から生じる収益

経常収益については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2. その他の経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益	3,257百万円
債権債権取立益	289百万円

(表示方法の変更)

「債権債権取立益」については金額的重要性が増したため、当連結会計年度より表示しております。

3. 営業経費には、次のものを含んでおります。

給料・手当	6,045百万円
計算委託料	1,234百万円

4. その他の経常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金償却	658百万円
株式等売却損	439百万円
株式等償却	231百万円

5. 営業キャッシュ・フローの減少、店舗統廃合の意思決定及び継続的な地価の下落等により、以下の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失(百万円)
高知県内	店舗 (ATM設置場所)	土地	0
		建物	8
	遊休資産	土地	23
		建物	0

当行の資産のグルーピングについては、稼働資産は管理会計上において継続的な収支の把握を行っている単位である各営業店舗とし、遊休資産等（売却・廃止予定店舗を含む）については各資産としております。また、連結子会社については各社を1つの資産グループとしております。

回収可能価額の算定は、正味売却価額によっており、不動産鑑定評価等に基づく評価から処分費用見込額を控除して算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1. その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	△5,072百万円
組替調整額	△60
法人税等及び税効果調整前	△5,133
法人税等及び税効果額	△38
その他有価証券評価差額金	△5,171
土地再評価差額金	
当期発生額	—
組替調整額	—
法人税等及び税効果調整前	—
法人税等及び税効果額	△44
土地再評価差額金	△44
退職給付に係る調整額	
当期発生額	222
組替調整額	22
法人税等及び税効果調整前	244
法人税等及び税効果額	△75
退職給付に係る調整額	169
その他の包括利益合計	△5,047

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項 (単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度 期末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	10,244	—	—	10,244	
第2種 優先株式	680	—	—	680	
合 計	10,924	—	—	10,924	
自己株式					
普通株式	167	0	62	105 (注) 1.2	
合 計	167	0	62	105	

(注) 1. 自己株式における普通株式の当連結会計年度末株式数には、株式交付信託が保有する当行株式53千株が含まれております。

2. 自己株式における普通株式の増加株式数0千株は、単元未満株式の買取請求による増加であります。また、減少株式数62千株は、株式交付信託の処分35千株、ストックオプションの権利行使に伴う譲渡26千株による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の 内訳	新株予約権の目的 となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)	当連結会計 年度期首	当連結会計年度 増加	当連結会計年度 減少	当連結会計 年度末残高	摘要
ストックオプションとしての 新株予約権								
当行				—			2	
合計				—			2	

3. 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2025年6月25日	普通株式	152百万円	15.00円	2025年3月31日	2025年6月26日
定時株主総会	第2種優先株式	59百万円	87.50円	2025年3月31日	2025年6月26日
2025年11月11日	普通株式	101百万円	10.00円	2025年9月30日	2025年12月5日
取締役会	第2種優先株式	59百万円	87.50円	2025年9月30日	2025年12月5日

(注) 1. 2025年6月25日定時株主総会の決議による「配当金の総額」には、株式交付信託が保有する当行株式(2025年3月31日基準日: 89千株)に対する配当金1百万円が含まれております。

2. 2025年11月11日取締役会の決議による「配当金の総額」には、株式交付信託が保有する当行株式(2025年9月30日基準日: 53千株)に対する配当金0百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2026年6月26日	普通株式	152百万円	利益剰余金	15.00円	2026年3月31日	2026年6月29日
定時株主総会	第2種優先株式	59百万円	利益剰余金	87.50円	2026年3月31日	2026年6月29日

(注) 1. 上記については、2026年6月26日開催の定時株主総会の議案として上程しております。

2. 「配当金の総額」には、株式交付信託が保有する当行株式(2026年3月31日基準日: 53千株)に対する配当金0百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている

科目の金額との関係	
現金預け金勘定	98,659百万円
普通預け金	△ 414百万円
定期預け金	△ 168百万円
その他預け金	△ 126百万円
現金及び現金同等物	97,950百万円

(リース取引関係)

(借手側)

オペレーティング・リース取引	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料	
1年内	24百万円
1年超	260百万円
合計	285百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループは、貸出金業務や預金業務を中心とした金融サービス業務を行うほか、債券等により有価証券運用を行っており、金利変動を伴う金融資産及び金融負債を有しているため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産・負債の総合的管理(ALM)を実施しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行グループが保有する主な金融資産は、国内の取引先に対する貸出金及び有価証券であります。貸出金は顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。また、有価証券は、主に債券、株式であり、純投資目的及び事業推進目的で保有しており、これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。保有している主な金融負債は、顧客から調達する預金であり、これは金利リスクに晒されております。また、デリバティブ取引として、外貨建債券等の為替リスクを回避するため為替予約取引を利用してあります。これは、すべてリスクヘッジを目的とした取引であり、投機目的での利用は行っておりません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスクの管理

当行グループでは、「リスク管理方針」及び「信用リスク管理規程」のほか、信用リスクに関する管理規程に基づき、個別債務者に対する厳正な与信審査・管理を行うことで個別債務者の信用リスクを管理するとともに、ポートフォリオ管理により銀行全体の信用リスクの分散を図っております。

営業店及び審査部門(融資統括部)において、個別債務者の財務分析、業界動向、資金使途、返済計画の評価を行うことで、個別債務者の管理をしております。評価は、新規与信実行時及び実行後の自己査定において定期的に行い、常に個別債務者の信用状況を把握するように努めております。さらに、自己査定等の状況については、監査部がチェックしております。

リスク管理部門(融資統括部)において、業種集中度や大口集中度等のモニタリングを定期的に行い、銀行全体の適切な与信ポートフォリオの構築を図るとともに、ストレス・テストを行っております。

リスク管理部門は、モニタリング結果を定期的にリスク管理委員会及び取締役会に報告しております。

② 市場リスクの管理

リスク管理部門は、金利リスクをはじめとした市場リスク量を計測するとともに、ストレス・テストを行って、金利・株式市場が大きく変動した場合に、自己資本に与える影響を試算しております。また、市場リスクを一定の範囲内に管理するため、ポジション枠、損失限度額、リスク・リミットのリスク限度枠を設定しており、リスク管理委員会等において、市場リスクのコントロールについて検討を行っております。

(i) 金利リスクの管理

当行では、銀行勘定(資産・負債勘定及び金利変動に感応するオフバランス勘定を含む)における金利リスクは、観測期間5年で計測した金利変動の1%タイル値・99%タイル値による金利ショックを与え計量化しております。

また、上記の方法以外にも貸出金、預金、有価証券などについて、BPV(ベース・ポイント・バリュー)、ギャップ分析、VaR(バリュー・アット・リスク)などの

計測手法を用いて計量化しております。

(ii) 為替リスクの管理

外国為替取引には、顧客による外貨預金の預入・払出、貿易・貿易外取引等があり、外貨建の金融資産と金融負債のバランスを管理し、為替リスクを抑制することとしております。

(iii) 価格変動リスクの管理

有価証券の保有については、市場リスクに関する管理規程に基づき、リスクを管理しております。資金運用部門である市場金融部は、予め取締役会において定められた取引種類ごとの運用限度額や保有基準等の範囲内で運用を行うことにより、価格変動リスクを管理しております。これらのモニタリング結果は、リスク管理部門を通じて、定期的にリスク管理委員会及び取締役会に報告し、検討、分析を行っております。

(iv) 市場リスクに係る定量的情報

当行では、金利リスク、為替リスク、株式等の価格変動リスクなどを、統一的なリスク尺度としてVaR(バリュー・アット・リスク)を利用することにより管理しております。VaRの計測手法には分散共分散法を用いており、過去1年間のヒストリカル・データに基づき、保有期間120営業日、信頼区間片側99.0%によりリスク量を計測しております。これらの前提条件をもとに計測した、2026年3月31日時点における当行単体のVaRの値は12,258百万円です。

VaR計測モデルについては、定期的にバック・テストングを実施することにより、その有効性を分析しております。なお、分散共分散法によるVaRは、統計的な仮定に基づいて算定したものであり、前提条件等によって、大きく異なる値となるものであり、また、最大損失額の予測を意図するものではありません。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当行は、管理規程の整備を進めるとともに、取締役会において年度毎にリスク管理プログラムを定め、流動性リスクの顕在化を防止しております。また、流動性リスクの主管部である市場金融部では、資金繰りをする部門(フロント・オフィス)と事務処理及びリスク管理を担当する部門(バック・オフィス)を分離し、それぞれ管理ルールに則った業務運営を行っており、相互に牽制機能が働く体制をとるとともに、リスク統括部署(経営統括部)においてモニタリングを実施しております。

リスクの分析結果は定期的にリスク管理委員会及び取締役会に報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式及び組合出資金は、次表には含めておりません(注1)参照)。また、現金預け金、外国為替(資産・負債)、債券貸借取引受入担保金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	1,003百万円	1,003百万円	-百万円
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	13,246	12,912	△ 333
その他有価証券	282,033	282,033	-
(3) 貸出金	732,635		
貸倒引当金(*1)	△ 12,212		
	720,422	709,196	△ 11,225
資産計	1,016,705	1,005,146	△ 11,559
(1) 預金	977,726	977,403	△ 323
(2) 譲渡性預金	33,000	33,000	-
(3) 借入金	75,402	75,350	△ 51
負債計	1,086,129	1,085,753	△ 375
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(445)	(445)	-
デリバティブ取引計	(445)	(445)	-

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。(表示方法の変更)

「デリバティブ取引」については金額的重要性が増したため、当連結会計年度より表示しております。

(注1) 市場価格のない株式及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

区分	当連結会計年度(2026年3月31日)
① 非上場株式(*1)(*2)	1,284百万円
② 組合出資金(*3)	703百万円

(*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしてありません。

(*2) 当連結会計年度において、非上場株式についての減損処理額は32百万円であります。

(*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしてありません。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内
預け金	83,487百万円	-百万円	-百万円
有価証券	13,124	57,143	77,046
満期保有目的の債券	-	1,500	11,800
その他有価証券のうち満期があるもの	13,124	55,643	65,246
うち国債	1,000	1,000	7,000
地方債	1,000	500	800
社債	7,940	31,609	34,416
外国債券	3,179	19,678	19,530
その他	4	2,856	3,499
貸出金(*)	172,675	153,538	106,414
合 計	269,287	210,682	183,460

	5年超7年以内	7年超10年以内	10年超
預け金	-百万円	-百万円	-百万円
有価証券	3,319	23,997	99,250
満期保有目的の債券	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの	3,319	23,997	99,250
うち国債	-	12,000	6,000
地方債	1,237	2,200	-
社債	-	1,200	91,950
外国債券	1,599	4,500	1,300
その他	482	4,097	-
貸出金(*)	59,714	74,361	123,066
合 計	63,034	98,358	222,316

(*) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない29,832百万円、期間の定めのないもの13,031百万円は含めておりません。

(注3) 借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内
預金(*)	920,206百万円	43,769百万円	11,380百万円
譲渡性預金	33,000	-	-
債券貸借取引受入担保金	5,701	-	-
借入金	74,108	1,036	246
合 計	1,033,015	44,806	11,626

	5年超7年以内	7年超10年以内	10年超
預金(*)	945百万円	2,265百万円	11百万円
譲渡性預金	-	-	-
債券貸借取引受入担保金	-	-	-
借入金	5	5	-
合 計	99	2,271	11

(*) 預金のうち、要求払預金については「1年以内」に含めて開示しております。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品
当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：百万円)

区分	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	-	1,003	-	1,003
有価証券				
その他有価証券				
国債・地方債等	24,589	5,478	-	30,068
社債	-	140,970	10,848	151,818
株式	21,555	-	-	21,555
その他	14,317	57,828	6,444	78,590
デリバティブ取引				
通貨関連	-	36	-	36
資産計	60,462	205,318	17,293	283,073
デリバティブ取引				
通貨関連	-	482	-	482
負債計	-	482	-	482

(表示方法の変更)

「デリバティブ取引」については金額の重要性が増したため、当連結会計年度より表示しております。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：百万円)

区分	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	-	936	-	936
社債	-	11,976	-	11,976
貸出金	-	-	709,196	709,196
資産計	-	12,912	709,196	722,109
預金	-	977,403	-	977,403
譲渡性預金	-	33,000	-	33,000
借入金	-	75,350	-	75,350
負債計	-	1,085,753	-	1,085,753

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資 産

金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託の信託財産の構成物である有価証券については、取引金融機関から提示された価格によっており、構成物のレベルに基づき、主にレベル2に分類しております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「(金銭の信託関係)」に記載しております。

有価証券

商品有価証券及び有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。

また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

自行保証付私算債は、内部格付、期間に基づく区分ごとに、その将来キャッシュ・フローをスワップ金利等に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引くこと等により、現在価値を算定しており、当該割引率が観察不能であることからレベル3の時価に分類しております。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、TIBOR、国債利回り、期限前返済率、信用スプレッド、倒産確率、倒産時の損失率等が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、その将来キャッシュ・フローをスワップ金利等に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引くことにより時価を算定しております。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としております。個人ローン等は、商品ごとのキャッシュ・フローを同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

これらの取引につきましては、レベル3に分類しております。

負 債

預金、及び譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、定期預金は新規に預金を受け入れる際に使用する利率、譲渡性預金はスワップ金利を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

借入金

借入金については、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をスワップ金利及び同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、店頭取引が主であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて金利、外国為替相場、ボラティリティ等のインプットを用いて、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した価額をもって時価としております。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル2の時価に分類しており、為替予約が含まれます。

(注2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報
当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	評価技法	重要な観察できない インプット	インプットの 範囲	インプットの 加重平均
有価証券 その他有価証券 社債				
私募債	割引現在価値法	割引率	1.981% - 3.304%	2.381%

(2) 期首残高から期末残高への調整表、当期損益に認識した評価損益
当連結会計年度（2026年3月31日）

(単位：百万円)									
期首残高	当期の損益又は その他の包括利益	購入、売却、 発行及び 決済の净额	レベル3の 時価への 振替	レベル3の 時価からの 振替	期末残高	当期の損益に 計上した額 のうち連結 貸借対照表に おいて保有 する金融資産 及び金融負債 の評価損益			
有価証券									
その他有価証券									
社債	13,629	- △	11 △	2,770	-	-	10,848	-	
その他	4,194	134 △	131	2,247	-	-	6,444	-	

(※1) 連結損益計算書の「その他業務収益」及び「その他業務費用」に含まれております。

(※2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明
当行グループは時価の算定に関する方針及び手続に従い、各取引部門が時価を算定・検証しております。時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

割引率はスワップ金利等に信用スプレッドを上乗せした利率で算定しております。
信用スプレッドは、格付別に過去の取引先の倒産実績をもとに算定した倒産確率を用いて算定しており、倒産確率の大幅な上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせます。

(有価証券関係)

※1. 連結貸借対照表の「有価証券」を記載しております。
※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

1. 売買目的有価証券
該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券

種類	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が連結貸借対 照表計上額を超えるもの			
地 方 債	-百万円	-百万円	-
社 債	-	-	-
小 計	-	-	-
時価が連結貸借対 照表計上額を超えないもの			
地 方 債	966百万円	936百万円 △	30百万円
社 債	12,279	11,976 △	303
小 計	13,246	12,912 △	333
合 計	13,246	12,912 △	333

3. その他有価証券

種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
株 式 債	20,094百万円	11,293百万円	8,801百万円
国 債	5,250	5,023	226
地 方 債	2,018	2,001	16
社 債	1,008	1,004	4
そ の 他	2,222	2,017	205
外国債券	24,208	21,455	2,752
小 計	7,676	7,641	34
小 計	49,553	37,772	11,781
株 式 債	1,460百万円	1,639百万円 △	178百万円
国 債	176,637	199,639	△23,002
地 方 債	22,571	24,377	△ 1,806
社 債	4,469	4,716	△ 246
そ の 他	149,595	170,545	△20,949
外国債券	54,381	56,192	△ 1,811
小 計	40,736	41,513	△ 776
小 計	232,479	257,472	△24,992
合 計	282,033	295,244	△13,211

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株 式 債	6,194百万円	1,789百万円	△ 350百万円
国 債	25,775	36	△2,000
地 方 債	13,257	36	△ 626
社 債	-	-	-
そ の 他	12,517	-	△1,373
外国債券	10,063	1,471	△ 136
合 計	-	-	-
合 計	42,033	3,297	△2,487

5. 保有目的を変更した有価証券

該当事項はありません。

6. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復の見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするともに、評価差額を当該連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当連結会計年度における減損処理額は、20百万円（うち、社債20百万円）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、原則として、銘柄ごとに以下のとおり定めております。

- ①時価が取得原価に対して50%以上下落している場合
- ②時価が取得原価に対して30%以上50%未満下落し、かつ発行会社の業績推移等を勘案した一定の基準に該当した場合

(金銭の信託関係)

1. 運用目的の金銭の信託

運用目的の金銭の信託	連結貸借対照表 計上額	連結会計年度の損益に 含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	1,003百万円	0百万円

2. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当事項はありません。

(その他有価証券評価差額金)

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

評価差額	△13,186百万円
その他有価証券	△13,186
その他の金銭の信託	-
(△) 繰延税金負債	224
その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前）	△13,410
(△) 非支配株主持分相当額	233
(十) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券評価差額金	△13,644

(注) 評価差額には、組合等の構成資産であるその他有価証券等に係る評価差額25百万円を含めております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

- (1) 金利関連取引
該当事項はありません。
- (2) 通貨関連取引

区分	種類	契約額等	契約額のうち 1年超のもの	時価	評価損益
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建	-百万円	-百万円	-百万円	-百万円
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨スワップ				
	為替予約				
店頭	売建	15,457	-	△451	△451
	買建	132	-	5	5
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
その他	買建	-	-	-	-
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
合 計		-	-	△445	△445

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

- (3) 株式関連取引
該当事項はありません。
- (4) 債券関連取引
該当事項はありません。
- (5) 商品関連取引
該当事項はありません。
- (6) クレジット・デリバティブ取引
該当事項はありません。
2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行は、2010年1月1日から確定拠出企業型年金制度（前払い退職金制度との選択制）と退職一時金制度で構成する退職給付制度を採用しており、退職一時金制度に対して2020年3月26日に退職給付信託を設定しております。

また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

なお、連結子会社は、主として退職一時金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額
退職給付債務の期首残高	2,582百万円
勤務費用	124
利息費用	22
数理計算上の差異の発生額	△ 259
退職給付の支払額	△ 222
退職給付債務の期末残高	2,248

(注) 1. 臨時に支払う割増退職金は含めておりません。

2. 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額
年金資産の期首残高	3,208百万円
期待運用収益	64
数理計算上の差異の発生額	△ 36
年金資産の期末残高	3,235

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区分	金額
積立型制度の退職給付債務	2,215百万円
年金資産	△ 3,235
	△ 1,020
非積立型制度の退職給付債務	33
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 986
区分	金額
退職給付に係る負債	33百万円
退職給付に係る資産	△ 1,020
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 986

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

区分	金額
勤務費用 ^(注)	124百万円
利息費用	22
期待運用収益	△ 64
数理計算上の差異の費用処理額	22
確定給付制度に係る退職給付費用	105

(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額
数理計算上の差異	244百万円
合計	244

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額
未認識数理計算上の差異	△ 82百万円
合計	△ 82

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

短期資金	1.7%
その他	98.3%
合計	100%

(注) 年金資産は、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が100%含まれております。

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

割引率	2.30%
長期期待運用収益率	2.00%
予想昇給率等	5.54%

3. 確定拠出制度

当行及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は当連結会計年度132百万円であります。

(ストックオプション等関係)

当行は、2008年6月26日開催の第128期定時株主総会において、当行取締役が株式報酬型ストックオプションとして割り当てる新株予約権に関する報酬等の額及び当該新株予約権の具体的な内容について承認をいただきましたが、2017年6月27日開催の第137期定時株主総会において業績連動型株式報酬制度の導入に関する議案の可決承認をもって、上記新株予約権に係る取締役の報酬枠を廃止し、新規に新株予約権の付与は行わないことといたしました。

1. スtockオプションにかかる費用計上額及び科目名
該当事項はありません。

2. スtockオプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプションの内容

決議年月日	2014年ストックオプション 2014年8月8日
付与対象者の区分及び人数（名）	当行の取締役7名
株式の種類別のストックオプションの数 ※1	普通株式 8,500株
付与日	2014年8月27日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	自 2014年8月28日 至 2044年8月27日

新株予約権の数（個） ※2	7（注1）
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数 ※2	普通株式 700株（注2）
新株予約権の行使時の払込金額 ※2	1株当たり1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 ※2	発行価格 1,270円 資本組入額 640円
新株予約権の行使の条件	（注3）
新株予約権の譲渡に関する事項 ※2	譲渡による新株予約権の取得については、認めないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 ※2	（注4）

決議年月日	2015年ストックオプション 2015年8月7日
付与対象者の区分及び人数（名）	当行の取締役7名
株式の種類別のストックオプションの数 ※1	普通株式 7,700株
付与日	2015年8月26日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	自 2015年8月27日 至 2045年8月26日

新株予約権の数（個） ※2	6（注1）
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数 ※2	普通株式 600株（注2）
新株予約権の行使時の払込金額 ※2	1株当たり1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 ※2	発行価格 1,330円 資本組入額 670円
新株予約権の行使の条件	（注3）
新株予約権の譲渡に関する事項 ※2	譲渡による新株予約権の取得については、認めないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 ※2	（注4）

決議年月日	2016年ストックオプション 2016年8月9日
付与対象者の区分及び人数（名）	当行の取締役7名
株式の種類別のストックオプションの数 ※1	普通株式 11,400株
付与日	2016年8月24日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	自 2016年8月25日 至 2046年8月24日

新株予約権の数（個） ※2	9（注1）
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数 ※2	普通株式 900株（注2）
新株予約権の行使時の払込金額 ※2	1株当たり1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 ※2	発行価格 960円 資本組入額 480円
新株予約権の行使の条件	（注3）
新株予約権の譲渡に関する事項 ※2	譲渡による新株予約権の取得については、認めないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 ※2	（注4）

※1 株式数に換算して記載しております。

※2 当連結会計年度末における内容を記載しております。

(注1) 新株予約権1個当たりの目的である株式数（以下「付与株式数」という。）は100株とする。

なお、上記表中の株式数及び金額は、当行が2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で実施した株式併合による調整を反映している。

(注2) 新株予約権の割当日後に当行が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の付与株式数について行われ、調整により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てる。

調整後付与株式数＝調整前付与株式数×分割・併合の比率

また、当行が合併、会社分割、株式交換または株式移転（以下総称して「合併等」という。）を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。

(注3) 新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、権利行使時において、当行の取締役の地位を喪失した時に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日から10日を経過するまでの間に限り、一括してのみ新株予約権を行使することができる。

- (2) 新株予約権者が死亡した場合、新株予約権が、新株予約権者の法定相続人のうち配偶者又は一親等の親族の1名(以下「相続継承人」という。)のみに帰属した場合に限り、相続継承人は次の各号の条件のもと、新株予約権を行使することができる。ただし、刑法犯のうち、重大な事犯を行ったと認められる者は、相続継承人となることができない。
- ①相続継承人が死亡した場合、その相続人は新株予約権を相続することはできない。
- ②相続継承人は、相続開始後10カ月以内かつ権利行使期間の最終日までに行行所定の相続手続を完了しなければならない。
- ③相続継承人は、所定の行使期間内で、かつ、当行所定の相続手続完了時から3カ月以内に限り新株予約権を行使することができる。
- (3) その他権利行使の条件は、当行と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
- (注4) 当行が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱い
- 組織再編に際して定める契約書または計画書等に以下定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。
- (1) 合併(当行が消滅する場合に限る)
合併後存続する株式会社または合併により設立する株式会社
- (2) 吸収分割
吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部または一部を承継する株式会社
- (3) 新設分割
新設分割により設立する株式会社
- (4) 株式交換
株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
- (5) 株式移転
株式移転により設立する株式会社

- (2) ストックオプションの規模及びその変動状況
当連結会計年度(2026年3月期)において存在したストックオプションを対象とし、ストックオプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① ストックオプションの数

2008年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	2,500
権利確定	—
権利行使	2,500
失効	—
未行使残	—
2009年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	2,500
権利確定	—
権利行使	2,500
失効	—
未行使残	—
2010年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	3,000
権利確定	—
権利行使	3,000
失効	—
未行使残	—
2011年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	2,800
権利確定	—
権利行使	2,800
失効	—
未行使残	—

2012年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	4,100
権利確定	—
権利行使	4,100
失効	—
未行使残	—

2013年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	2,800
権利確定	—
権利行使	2,800
失効	—
未行使残	—

2014年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	3,500
権利確定	—
権利行使	2,800
失効	—
未行使残	700

2015年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	3,000
権利確定	—
権利行使	2,400
失効	—
未行使残	600

2016年ストックオプション	
権利確定前	(株)
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	(株)
前連結会計年度末	4,700
権利確定	—
権利行使	3,800
失効	—
未行使残	900

② 単価情報

2008年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 940
2009年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 820
2010年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 660
2011年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 740
2012年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 760
2013年ストックオプション	
権利行使価格	(円) 1
行使時平均株価	(円) 752
付与日における公正な評価単価	(円) 1,410

2014年ストックオプション		
権利行使価格	(円)	1
行使時平均株価	(円)	752
付与日における公正な評価単価	(円)	1,260
2015年ストックオプション		
権利行使価格	(円)	1
行使時平均株価	(円)	752
付与日における公正な評価単価	(円)	1,320
2016年ストックオプション		
権利行使価格	(円)	1
行使時平均株価	(円)	752
付与日における公正な評価単価	(円)	950

3. スtockオプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与されたストックオプションは該当ありません。

4. スtockオプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用します。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	4,521百万円
その他有価証券評価差額金	4,270
退職給付に係る負債	631
有価証券評価損	332
固定資産の減損損失	316
繰延資産	119
賞与引当金	105
減価償却	0
その他	615
繰延税金資産小計	10,913
評価性引当額(注)	△ 9,151
繰延税金資産合計	1,761
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△ 224
固定資産圧縮積立金	△ 107
子会社の留保利益金	△ 11
その他	△ 16
繰延税金負債合計	△ 359
繰延税金資産(△は負債)の純額	1,401百万円

(注) 評価性引当額変動の主な内容

評価性引当額が1,926百万円増加しております。主な要因は、その他有価証券評価差額金に関する評価性引当額が1,694百万円増加し、貸倒引当金に関する評価性引当額が194百万円増加したこと等によるものです。

2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.45%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.48
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△ 4.57
住民税均等割等	1.93
法人税等還付税額	△ 3.60
評価性引当額	18.16
その他	1.10
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.95%

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	クレジット カード業	計		
預金・貸出業務	233	-	-	233	-	233
為替業務	529	-	-	529	-	529
証券関連業務	537	-	-	537	-	537
その他	530	-	360	890	-	890
顧客との契約から生じる収益	1,829	-	360	2,189	-	2,189
その他の収益	19,913	6,248	26	26,189	-	26,189
外部顧客に対する経常収益(注)	21,743	6,248	386	28,379	-	28,379

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

当行グループは、銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービスに係る事業を行っており、顧客との契約から生じる収益は主に「預金・貸出業務」「為替業務」「証券関連業務」による役務の提供に対する収益等から構成されております。

①預金・貸出業務

預金・貸出業務における主な収益は、口座振替手数料であり、振替の完了時点で履行義務が充足されると判断しており、当該時点で収益を認識しております。

②為替業務

為替業務における主な収益は、振込手数料であり、振込の完了時点で履行義務が充足されると判断しており、当該時点で収益を認識しております。

③証券関連業務

証券業務における主な収益は、投信販売手数料及び投信取扱報酬手数料であり、投信販売手数料については、顧客へ販売完了時点において履行義務が充足されると判断しており、当該時点で収益を認識しております。また、投信取扱報酬手数料については、各投資信託の決算時等に当行グループの取扱いに係る信託財産の純資産総額が確定したとき等に収益を認識しております。

3. 当期及び翌期以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

当行グループの契約資産及び契約負債の内訳は以下のとおりであります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
(単位: 百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	107
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	107
契約資産(期首残高)	-
契約資産(期末残高)	-
契約負債(期首残高)	20
契約負債(期末残高)	20

連結会計年度末で、役務提供が完了している場合で対価を受領していないものを顧客との契約から生じた債権とし、役務提供が完了していない場合で、対価を受領しているものを契約負債とし、それぞれ連結貸借対照表のその他資産、その他負債に計上しております。

契約負債の主な内容は、クレジットカードの年会費等のうち、履行義務を充足する前に顧客から対価を得た部分であり、役務取引等の提供に伴って履行義務が充足され、収益へ振り替えられます。当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、20百万円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当行及び連結子会社では、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

連結決算セグメント情報等

●セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、当行及び連結子会社4社で構成されており、銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

従いまして、金融業におけるサービス別のセグメントから構成されており、「銀行業」「リース業」及び「クレジットカード業」の3つを報告セグメントとしております。

「銀行業」は、預金業務、貸出業務、有価証券投資業務、為替業務等を行っております。

「リース業」は、連結子会社のオーシャンリース株式会社において、リース業務等を行っております。

「クレジットカード業」は、連結子会社の株式会社高知カードにおいて、クレジットカード業務を行っております。

2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は、第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：百万円)

	2024年度						2025年度					
	報告セグメント				調整額	連結財務諸表計上額	報告セグメント				調整額	連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	クレジットカード業	計			銀行業	リース業	クレジットカード業	計		
経常収益												
外部顧客に対する経常収益	17,788	5,360	372	23,522	△42	23,479	21,743	6,248	386	28,379	-	28,379
セグメント間の内部経常収益	51	74	2	128	△128	-	68	78	2	149	△149	-
計	17,840	5,435	375	23,650	△171	23,479	21,811	6,327	389	28,528	△149	28,379
セグメント利益	1,067	148	11	1,228	△3	1,224	1,123	246	13	1,383	△2	1,380
セグメント資産	1,142,595	12,098	3,314	1,158,009	△4,516	1,153,492	1,146,354	12,494	3,305	1,162,154	△5,550	1,156,604
セグメント負債	1,094,046	7,393	2,118	1,103,558	△4,224	1,099,333	1,102,712	7,551	2,123	1,112,387	△5,257	1,107,129
その他の項目												
減価償却費	836	83	-	919	11	931	820	83	0	903	12	916
資金運用収益	13,700	20	23	13,744	△31	13,713	15,658	22	21	15,701	△35	15,666
資金調達費用	717	49	0	766	△29	736	2,636	51	0	2,688	△33	2,654
特別利益	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	-	0
特別損失	38	-	-	38	-	38	101	0	-	101	△0	100
(減損損失)	30	-	-	30	-	30	33	-	-	33	-	33
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	585	-	-	585	2	587	1,396	0	4	1,400	21	1,422

【2024年度】

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2. 調整額は、次のとおりであります。
- (1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△42百万円は、「リース業」の貸倒引当金戻入益であります。
- (2) セグメント利益の調整額△3百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (3) セグメント資産の調整額△4,516百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (4) セグメント負債の調整額△4,224百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (5) 減価償却費の調整額11百万円は、グループ内のリース取引に伴い発生した減価償却費であります。
- (6) 資金運用収益の調整額△31百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (7) 資金調達費用の調整額△29百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (8) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額2百万円は、グループ内のリース取引における有形固定資産の増加額であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

【2025年度】

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2. 調整額は、次のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額△2百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (2) セグメント資産の調整額△5,550百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (3) セグメント負債の調整額△5,257百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (4) 減価償却費の調整額12百万円は、グループ内のリース取引に伴い発生した減価償却費であります。
- (5) 資金運用収益の調整額△35百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (6) 資金調達費用の調整額△33百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
- (7) 特別損失の調整額△0百万円は、グループ内のリース取引における固定資産処分損の増加額であります。
- (8) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額21百万円は、グループ内のリース取引における有形固定資産の増加額であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

●関連情報

前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	9,863	5,322	5,268	3,025	23,479

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	10,942	7,698	6,206	3,531	28,379

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

●報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	クレジットカード業	計				
減 損 損 失	30	—	—	30	—	30	—	30

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	クレジットカード業	計				
減 損 損 失	33	—	—	33	—	33	—	33

●報告セグメントごとの負ののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

前連結会計年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	銀行業	リース業	クレジットカード業		
当 期 償 却 額	—	17	—	—	17
当 期 末 残 高	—	—	—	—	—

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	銀行業	リース業	クレジットカード業		
当 期 償 却 額	—	—	—	—	—
当 期 末 残 高	—	—	—	—	—

●報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

業務粗利益〔連結〕

(単位：百万円)

	2024年度			2025年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資 金 運 用 収 支	12,400	576	12,976	12,242	772	13,014
うち資金運用収益	13,107	630	13,737	14,846	947	15,793
うち資金調達費用	707	54	761	2,604	175	2,779
役 務 取 引 等 収 支	1,234	10	1,244	1,225	9	1,235
うち役務取引等収益	2,635	16	2,651	2,686	16	2,702
うち役務取引等費用	1,401	5	1,406	1,460	7	1,467
そ の 他 業 務 収 支	△ 689	△ 660	△ 1,349	△ 2,139	△ 262	△ 2,402
うちその他業務収益	6,003	0	6,003	6,329	—	6,329
うちその他業務費用	6,692	660	7,352	8,468	262	8,730

(注) 1. 国内業務部門は、当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。
2. 連結会社間の取引に係る収益・費用につきましては、相殺消去のうえ記載しております。
3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
4. 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用（前連結会計年度0百万円、当連結会計年度0百万円）を控除して表示しております。

役務取引の状況〔連結〕

(単位：百万円)

	2024年度			2025年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役 務 取 引 等 収 益	2,635	16	2,651	2,686	16	2,702
うち預金・貸出業務	614	—	614	689	—	689
うち為替業務	510	16	526	512	16	529
うち証券関連業務	581	—	581	573	—	573
うち代理業務	25	—	25	28	—	28
うち保護預り・貸金庫業務	6	—	6	6	—	6
うち保証業務	22	0	22	20	0	20
役 務 取 引 等 費 用	1,401	5	1,406	1,460	7	1,467
うち為替業務	43	5	48	45	7	52

(注) 1. 国内業務部門は、当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 連結会社間の取引に係る収益・費用につきましては、相殺消去のうえ記載しております。

資金運用・調達勘定平均残高等（連結）

（単位：百万円、％）

●国内業務部門

	2024年度			2025年度		
	平均残高	利 息	利 回 り	平均残高	利 息	利 回 り
資 金 運 用 勘 定	(35,559) 1,102,848	(24) 13,107	1.18	(43,951) 1,125,936	(127) 14,846	1.31
うち貸 出 金	726,112	9,723	1.33	730,244	10,776	1.47
うち有 価 証 券	279,939	3,228	1.15	281,382	3,554	1.26
うち預 け 金	61,237	130	0.21	70,358	388	0.55
資 金 調 達 勘 定	1,078,072	707	0.06	1,096,908	2,604	0.23
うち預 金	1,017,054	626	0.06	1,013,851	2,159	0.21
うち譲 渡 性 預 金	11,853	19	0.16	23,369	154	0.66
うちコールマネー及び売渡手形	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	2	0	0.25	731	5	0.74
うち借 用 金	50,225	61	0.12	59,953	286	0.47

- (注) 1. 「国内業務部門」とは、当行及び連結子会社の円建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国内業務部門から除いております。
2. 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、当行以外の子会社については、主として月末毎の残高に基づく平均残高を利用しております。
3. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。
4. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（前連結会計年度1,529百万円、当連結会計年度1,500百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（前連結会計年度1,069百万円、当連結会計年度1,003百万円）及び利息（前連結会計年度0百万円、当連結会計年度2百万円）をそれぞれ控除して表示しております。
5. 連結会社間の取引に係る債権・債務及び収益・費用につきましては、相殺消去のうえ記載しております。

●国際業務部門

	2024年度			2025年度		
	平均残高	利 息	利 回 り	平均残高	利 息	利 回 り
資 金 運 用 勘 定	37,671	630	1.67	47,842	947	1.98
うち貸 出 金	4,219	140	3.33	6,521	166	2.55
うち有 価 証 券	31,662	481	1.51	39,578	773	1.95
うち預 け 金	—	—	—	—	—	—
資 金 調 達 勘 定	(35,559) 37,688	(24) 54	0.14	(43,951) 47,834	(127) 175	0.36
うち預 金	2,024	23	1.18	3,753	43	1.15
うち譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー及び売渡手形	99	5	5.24	117	4	3.87
うち債券貸借取引受入担保金	—	—	—	—	—	—
うち借 用 金	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 「国際業務部門」とは、当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末 T T 仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方法）により算出しております。
3. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。
4. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（前連結会計年度3百万円、当連結会計年度6百万円）を、控除して表示しております。
5. 連結会社間の取引に係る債権・債務及び収益・費用につきましては、相殺消去のうえ記載しております。

●合 計

	2024年度			2025年度		
	平均残高	利 息	利 回 り	平均残高	利 息	利 回 り
資 金 運 用 勘 定	1,104,960	13,713	1.24	1,129,827	15,666	1.38
うち貸 出 金	730,332	9,863	1.35	736,766	10,942	1.48
うち有 価 証 券	311,601	3,709	1.19	320,960	4,327	1.34
うち預 け 金	61,237	130	0.21	70,358	388	0.55
資 金 調 達 勘 定	1,080,201	736	0.06	1,100,791	2,652	0.24
うち預 金	1,019,079	650	0.06	1,017,604	2,203	0.21
うち譲 渡 性 預 金	11,853	19	0.16	23,369	154	0.66
うちコールマネー及び売渡手形	99	5	5.24	117	4	3.87
うち債券貸借取引受入担保金	2	0	0.25	731	5	0.74
うち借 用 金	50,225	61	0.12	59,953	286	0.47

- (注) 1. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は相殺して記載しております。
2. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（前連結会計年度1,532百万円、当連結会計年度1,506百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（前連結会計年度1,069百万円、当連結会計年度1,003百万円）及び利息（前連結会計年度0百万円、当連結会計年度2百万円）をそれぞれ控除して表示しております。
3. 連結会社間の取引に係る債権・債務及び収益・費用につきましては、相殺消去のうえ記載しております。

預金科目別残高〔連結〕

(単位：百万円)

		2024年度末			2025年度末		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
預金	流動性預金	581,782	—	581,782	575,474	—	575,474
	定期性預金	412,362	—	412,362	395,599	—	395,599
	その他の	1,899	2,692	4,591	1,695	4,957	6,652
	金 合 計	996,044	2,692	998,737	972,769	4,957	977,726
譲渡性預金		32,900	—	32,900	33,000	—	33,000
	金 合 計	1,028,944	2,692	1,031,637	1,005,769	4,957	1,010,726

- (注) 1. 国内業務部門は、当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
3. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
4. 連結会社間の取引に係る債権・債務につきましては、相殺消去のうえ記載しております。

貸出金業種別内訳〔連結〕

(単位：百万円、%)

	2024年度末	2025年度末
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	745,537 (100.00)	732,635 (100.00)
製造業	60,410 (8.10)	54,183 (7.40)
農業、林業	3,063 (0.41)	2,736 (0.37)
漁業	6,353 (0.85)	5,378 (0.73)
鉱業、採石業、砂利採取業	552 (0.08)	459 (0.06)
建設業	39,117 (5.25)	39,369 (5.37)
電気・ガス・熱供給・水道業	28,121 (3.77)	28,827 (3.94)
情報通信業	9,116 (1.22)	7,552 (1.03)
運輸業、郵便業	26,222 (3.52)	30,406 (4.15)
卸売業、小売業	89,339 (11.98)	84,059 (11.47)
金融業、保険業	63,301 (8.49)	59,049 (8.06)
不動産業、物品賃貸業	114,203 (15.32)	116,400 (15.89)
各種サービス業	106,599 (14.30)	102,001 (13.92)
地方公共団体	80,271 (10.77)	79,310 (10.83)
その他の	118,863 (15.94)	122,899 (16.78)
特別国際金融取引勘定分	—	—
政府等	—	—
金融機関	—	—
その他の	—	—
合 計	745,537	732,635

- (注) 「国内」とは当行及び国内子会社であります。

金融再生法開示債権及びリスク管理債権〔連結〕

(単位：百万円)

	2024年度末 (A)	2025年度末 (B)	増減 (B) - (A)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,557	3,955	398
危険債権	26,491	26,382	△ 109
要管理債権	627	882	255
三月以上延滞債権額	—	32	32
貸出条件緩和債権	627	850	223
小 計	30,677	31,220	543
正 常 債 権	744,508	728,947	△15,561
合 計	775,185	760,167	△15,018

有価証券残高〔連結〕

(単位：百万円)

		2024年度末			2025年度末		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
国 債		21,972	—	21,972	24,589	—	24,589
	地 方 債	2,938	—	2,938	6,445	—	6,445
社 債		185,370	—	185,370	164,098	—	164,098
	株 式	17,449	—	17,449	22,840	—	22,840
そ の 他 の 証 券		26,185	29,999	56,185	30,880	48,412	79,293
	合 計	253,915	29,999	283,915	248,854	48,412	297,267

- (注) 1. 国内業務部門は、当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 「その他の証券」には、外国債券を含んでおります。